

# 風のひろば

JULY  
2021

vol.18

学長再任ごあいさつ

学部長就任ごあいさつ

大学の今

トピックス

看護実習を終えて

新任教職員・退職教員のご紹介

卒業生・修了生インタビュー

研究紹介



## 学長再任ごあいさつ



大分県立看護科学大学  
学長・理事  
村嶋 幸代

### 新たな再出発の時に思うこと

平成10年(1998年)に開学した大分県立看護科学大学は、今年、23年目を迎えました。私は、2012年に本学に着任し、10年目の今年から新たな任期(3年間)に入りました。

新たな任期に入るにあたり、次のように3つの目標を立てました。

### #1. 県立大学であることの使命を認識し、教職員がワンチームとして活動する

本学の設置目的は、定款第1条にあるように、「大分県における看護学の拠点となること」です。これを実現する方策は、下記の3つだと思えます。

- (1)人材養成と現任教育の提供(教育・社会貢献)
- (2)少子高齢化・国際化が進む地域社会のための対策の立案(研究・教育・社会貢献)
- (3)看護学・人間科学の知見を、県内の企業・起業のために生かす(研究・産学連携)

運営の基本方針は、「本学の使命を踏まえ、学内教職員や関係機関等とよく相談しながら、将来に向けて本学の特長を伸ばす」ことです。そのため、下記に留意して運営します。

- ①本学の現状と課題を全教職員が認識し、自ら改善・改革できるように図る。
- ②教育と研究と社会貢献が、相乗効果を持つ

つ方法を考案し、実行する。

③課題や必要性に応じ、県・関係機関・職能団体・同窓会・後援会等と協働する。

本学の教育と研究を通して、学生はもとより、教職員も能力を伸ばし、自己実現できること、それが、大分県の発展につながることを目指したいと思えます。

### #2. 本学が掲げる「看護の科学」という目標 および蓄積を大事にし、人間科学と看護学との協働を図り、次の世代を切り開いていくこと

本学は、看護科学大学と、大学名称に「科学」が付くことが特徴です。カリキュラムにも「健康科学実験」が取り入れられ、動物舎も整備されているなど、看護の単科大学としてはユニークな存在です。これを支えているのが、豊かな人間科学の教師陣です。

開学後20年が経ち、看護学の人材も成長し、博士号の保有者も増えてきました。臨床の看護に発した研究で、企業の注目を浴びるような人材も出てきました。そのようなユニークな研究を伸ばし、大分県の産業にも貢献できるようにしていきたいと思えます。

「協働と自立、そして開拓」です。看護の未来は、病院から地域、産業興しへと広がっています。積極的に取り組みたいと思えます。

### #3. ICT化を進め、実習の在り方を含めて、時代の変化に対応・先取りする

COVID-19は、世の中に大きな変革を迫りました。遠隔授業が日常のこととなり、実習も「患者さんを看護しながら学ぶ」ことが難しくなりました。一方で、デジタル化、情報化の進歩は目覚ましく、バーチャルリアリティを活用することができるようになりました。本学も、看護学実習に求めることや在り方を明確にし、実習室を改革します。既に、本年、ワーキンググループを組織し、議

論を始めました。

本学は、情報インフラを整備してきたおかげで、オンライン授業にスムーズに切り替えられ、学事層の変更なく、教育を続けることができました。先に取り組んだことが、次の危機を回避することにつながりました。これからも、果敢に挑戦して、次の時代を切り開いていきたいと思えます。

在学生も卒業生も教職員も、一人ひとりが持ち味を発揮して、その人らしく輝いていけるような教育と社会づくりを目指して、本学はこれからも歴史を積み重ねていきます。ご支援・ご鞭撻を、宜しくお願い申し上げます。



## 学部長就任ごあいさつ



大分県立看護科学大学  
学部長・教授  
福田 広美

4月1日から学部長として新たな役割を担う機会を頂きました。

私は、保健管理学研究室で看護管理学と在宅看護学の教育に携わっております。平成29年からは大分県中小規模病院等看護管理者支援事業を通して、大分県や大分県看護協会、大分大学医学部看護学科等の関係者、県の保健所保健師が運営なさる看護の地域ネットワークに参加される看護管理者の皆様と共に、より良い看護管理に向けた活動に取り組む機会も頂いています。これ

まで豊肥、南部、豊後高田地域で活動を行い、昨年には国東地域、今年から宇佐、中津地域で活動を予定しています。

大分県の中小規模病院は、医療機関の約9割と多く、県内の地域医療を隅々まで支えておられます。特に、看護管理者の皆様には、人手不足や新型コロナウイルス感染症対策等、様々な課題に日々直面しながらも創意工夫や対策を講じ、常に最大限の努力をされています。こうした看護管理者の皆様と共に、より良い看護管理、看護の実践に向けて話し合う場をご一緒させて頂くことで、私自身、教育現場の立場から学部教育についても考える貴重な機会となっております。現場では、看護師一人一人が、判断する力や課題を改善、解決する力がこれまで以上に必要とされており、様々な課題に立ち向かえる人材を育成することが不可欠だと感じます。

本学では、2022年から始まる新たなカリキュラムに向けて、全学的なカリキュラム改革が行われました。キーワードの一つは学生の主体性です。看護師基礎教育の指定規則上、過密になりがちなカリキュラムを見直し、学生が自ら考え、判断し、主体的に学び成長していく教育への変革が最大の焦点となりました。まさに、看護の現場で必要とされている人材の育成に向けて、教育の自身が問われていると思えます。来年からいよいよ2022年の新カリキュラムが始まります。学生が主体的に学び、将来、現場の課題解決に向けて活躍できるよう教育を行っていきたくと思えます。

保護者の皆様、学生の学びを支えて下さる地域住民の皆様、日頃より教育をご支援下さる医療機関等の関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。今後も、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 大学の今

看護師国家試験2年連続  
全員合格！



勉強に励む学生

2020年度、本学の看護師国家試験受験者は、昨年度に引き続き全員合格することができました。

第110回看護師国家試験は全国で約66000人が受験し、約60000人が合格しました。毎年合格率はほぼ変わらず、受験生の約9割が合格します。9割合格する試験ならば「受ければ合格する簡単な試験」のようですが、逆に言えば「1割は必ず不合格がでる試験」とも言えます。第110回国家試験は全国の看護大学267校のうち、受験者が100%合格したのは68校でした(厚生労働省)。一人も涙を流すことなく笑顔で新しい道に進んでいったことは、とても貴重で価値あることと感じました。昨年度同様、国試対策に役に立ちそうな情報を、必要な時期に学生に提供し、実習や



国家試験受験へ向けて出発

就職活動、卒業研究と並行しながらの国試対策勉強を、一年を通して促してきました。昨年度と違ったのは、感染対策のため学生同士で教えあつての勉強を促すことができなかったことと、本来は本試験の形式に慣れるよう集合して行う模擬試験ですが、集合してできたのは年間9回のうち1回のみでした。大学に登校できない時期は、学生の自宅に模試を郵送し実施した回もありました。このように、国試対策としては柔軟な対応を求められましたが、学生は全国で自分どの位置にいるかを模試で確認し、解きなおして力をつけました。研究室の先生方にも見守っていただきながら、2月中旬の受験日まで各自で勉強を進めました。

学生の自主的な学習をサポートするために当委員会を取り組んだことは、①学生が学習する環境の確保、②使用する問題集、予想問題など役に立ちそうな情報の提供、③模試の自己採点により学生が自分の力を把握できるしくみづくりと必要な学生への個別支援でした。

卒業時、確実に国家資格を手にして新しい道を進んでいけるよう、2021年度も全員合格のために支援を続けています。

## 大学院実践者養成コースで NP(診療看護師)をめざしませんか

12021年度から学部4年生を対象に  
「地域枠特別選抜制度」を始めました！

1. 実践者養成NP(診療看護師)コースとは  
大分県立看護科学大学は、大学院修士課程実践者養成NPコースを2008年度に全国初で開講しました。その後の経緯で特定行為研修制度が法制化に繋がっていると考えています。また、2015年度には、厚労省の指定特定行為研修機関に認定され、21区分38項目を導入しました。本コースは、患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師(Nurses Practitioner)を養成する教育課程です。修了生は、プライマリケア領域の患者さんへの診療看護を担い、診療看護師(NP)という呼称で地域医療に貢献しています。令和2年度までに修了生57名を輩出しました。

本コースの修了生は、日本NP教育大学院協議会の認定資格試験を受けますが合格率100%で、就職率も100%です。全国では、約600名のNPが活躍しています。

2. NPコース地域枠特別選抜とは  
本学では、2021



3. 選抜の方法  
2021年度の募集人員は、若干名です。対象は、本学の4年次生です。7月に書類審査と小論文、面接の審査を実施します。この選抜試験に合格した場合は、卒業後6年間有効です。

4. NPコース修了生の活躍の場  
全国で57人、内大分県に27人が活躍しています。

## ■ 地域生活支援実習 成果報告会

2月16日(火)に大学院広域看護学コース1年次生の「地域生活支援実習」成果報告会をZoomで開催しました。

県内の保健師、学部生など計50名の方にご参加いただき、実習指導者からは、「事例が育ててくれていると改めて実感した」「保健師活動の原点になるので忘れないでほしい」「対象に寄り添い多角的方向から捉えている」などのコメントをいただきました。



## ■ 設置型電動ペットボトルオープナー 完成

本学教員2名が参加している産学官交流グループ(特定非営利活動法人 ホビータム、大分県産業科学技術センター、株式会社石井工作研究所、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)ペンディング大分支店、大分県立看護科学大学)にて開発した「設置型電動ペットボトルオープナー」が完成し、3月5日に大分市へ寄贈させて頂きました。

このオープナーは、ハンデがある方や車椅子の方、握力の弱い方などペットボトルが開けづらい、開けられない方の「困り」を解消することを目的に開発されました。

今後は、市役所や県庁などに設置していく予定です。



## ■ 基礎看護学実習 発表会

1月19日～25日に基礎看護学実習(学内編)を行いました。実習では基礎看護学研究室の教員が様々な特徴の糖尿病患者さんに扮しました。その患者さんから情報収集をし、対象者を生活者として捉え、健康障害や入院によって受けている影響を考察し、必要な看護を判断しました。

次は、7月の基礎看護学実習(臨地編)で実際の患者さんを担当します。この1週間で、7月の実習の準備が一歩進みました。



## ■ 令和3年度 入学式

4月8日(水)に入学式が執り行われました。今年度は、学部1年次生81名、大学院博士前期(修士)課程22名と後期(博士)課程5名が入学しました。

入学式では、新入生の名前が一人ずつ読み上げられ、村嶋幸代学長より入学が許可されました。次いで入学生代表による入学生宣誓、学長の式辞の後に、広瀬大分県知事、御手洗大分県議会議長よりご祝辞を頂きました。さらに、関係各位の皆様からも、新入生の門出を祝う電報を多数頂きました。心より感謝申し上げます。入学生の皆さん、そしてご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。



## ■ 広域看護活動研究実習 成果報告会

12月17日(木)に大学院広域看護学コース1年次生の「広域看護活動研究実習」成果報告会をZoomで開催しました。

県内の保健師、学部生など計48名の方にご参加いただき、実習指導者からは、「テーマのみでなく日頃の保健師活動の学びもあり、実習全体を踏まえての学びとなっているところも良かった」などのコメントをいただきました。



## ■ 令和2年度 卒業証書・学位記授与式

3月18日(木)に令和2年度卒業証書・学位記授与式が本学講堂にて執り行われました。学部生81名、大学院修士課程36名、大学院博士課程2名の卒業生・修了生が式典に参加し、代表者へ卒業証書・学位記が授与されました。色とりどりのはかま姿に、会場の様子は晴れやかでした。卒業生・修了生の皆様の今後の活躍を、心よりお祈り申し上げます。



## 看護学実習を終えて

看護アセスメント学実習では、患者さんとコミュニケーションをとる中で得た情報や、検査データなどのカルテから得られる情報など、様々な面から得られる情報を組み合わせ、患者さんが現在抱えている問題、今後抱える可能性の高い問題を考えて、解決に向けたアセスメントを行いました。

学内演習では、ペーパーペイシエントを用いた看護過程の展開を行います。そのため、患者さんの変化の過程を知るにも、情報量に限りがあります。それに対し病棟実習では、日々の検査データはもちろん、患者さんのリハビリに対する意欲や、感情が訪事することによって変わっていく様子を実感することが出来ます。さらに、患者さんとのコミュニケーションの中で広がっていく情報もあり、情報量の多さや無限さに苦戦しました。しかし、コミュニケーションの中で得られる情報はとても濃いものでした。自分で患者さんを知るために必要な情報を選び、収集するのはとても難しいことではと感じましたが、同時に、コミュニケーションの大切さにも改めて気付くことができ、学びが深まりました。

私は、受け持ち患者さんの強みを活かして、退院に向けたアセスメントを行い、退院に近づくための援助を行いました。患者さんに、「これなら私でもできるわ。こんなこと考えてくれてありがとう」という言葉を頂いた時に、少しでも患者さんの役に立てたことがとても嬉しく、頑張ったよかったという気持ちと共に、今後もっと頑張っていきたいと思いました。

9月からは3ヵ月実習が始まるため、今回の看護アセスメント学実習での学びを活かしていきたいと思っています。

3年次生 玉井 礼華



去年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、基礎看護学実習は学内で行われました。先生方が演じてくださる模擬患者に学生が情報収集をし、適切な記録様式を提案するという内容でした。

患者さんを身体的、心理的、社会的に捉え、社会で生活している人として理解することの大切さを学びました。短期間で患者さんを理解し、必要な看護を考えることの難しさを実感することができました。限られた時間のなかで必要な情報を得なければいけないと焦りを感じ、コミュニケーションというより質問責めのようになってしまうのではないかと反省しています。今回の実習で自分のコミュニケーション力の低さに改めて気づかされました。コミュニケーション力は普段の会話やグループワークなどでも培っていきけると思うので、問の取り方や質問の仕方などを普段から意識していきたいです。また、予防的家庭訪問実習の際に先輩方が協力者様と会話している姿からコミュニケーションのコツを得たいです。

病院での基礎看護学実習が夏休みに予定されています。私たちの学年にとって、それが初めての病棟実習となるため緊張していますが、学内実習での学びや改善点を生かし、充実した実習になるように頑張りたいです。

2年次生 後藤 璃帆





### 保健管理学研究室 講師 荒木 章裕

13年振りに母校に戻ってまいりました。コロナ禍で何かと慌ただしい着任ではありませんでしたが、母校の懐かしさと、新しい環境という新鮮さを噛み締めながら日々過ごしています。

前任はつくば国際大学で、主に在宅看護の教育に携わっていました。本学では新たに看護管理の視点も含めつつ、学生の皆様に知識を還元してまいります。また教育にあたっては、学生時代の自分に接するつもりでサポートしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 新任教職員のご紹介



### 保健管理学研究室 助教 姫野 雄太

4月から保健管理学研究室に着任しました。私はこの大学を卒業し、病院での経験を経て、今年の3月まで千葉大学で看護学について勉強していました。これからも看護学の奥深さと面白さを皆さんと学んでいきたいと思っています。

COVID-19により様々な制限がありますが、こんな時だからこそ「できること」、「やらなきゃいけないこと」があります。そんな皆さんの学びややりたいことを全力でサポートしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



### 助産学研究室 助手 矢野 杏子

4月から助産学研究室に着任いたしました。母校である本学に戻り、学生と共に学び、成長する機会を頂いたことに感謝しています。早々に院生の学ぶ姿勢には刺激を受け、自己の課題に気付かされ、「教うるは学ぶの半ば」を実感しています。これからも学生との関わりを通して、自己の実践を振り返り、学ぶ姿勢を忘れずに行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



### 理事 兼 事務局長 岡田 浩明

4月から理事兼事務局長として着任しました。前職では大分県商工観光労働部観光局に勤務し、観光業界におけるコロナ禍への対応に追われていました。本学でも、昨年来、感染拡大防止対策を講じてきていますが、依然として厳しい状況が続いています。一方で、医療現場やワクチン接種など、看護職者に対する県民の期待の高さも実感します。皆さんとともに、本学の使命の実現に向け尽力していきたいので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 保健管理学研究室 助手 矢野 亜紀子

4月から保健管理学研究室に着任いたしました。前職は大分市医師会立アルメイダ病院に勤務していました。私はこの大学で社会人学生として学びました。在学中は、多くの若い仲間たちに支えられました。教員となり、実習等で学生のみなさんが様々な課題にひたむきに、そして丁寧に取り組む姿に触れるたび、再び心が洗われる思いです。これからもみなさんと共に成長していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



### 事務局総務グループ グループリーダー 尾割 勇作

4月から事務局総務グループに着任しました。主に人事関係の業務を担当します。前任は大分県生活環境企画課で議会担当をしていました。

初めてのことばかりで、なかなか思うように業務が進められていませんが、教職員の皆さんが安心して業務に集中できるよう頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



### 事務局教務学生グループ グループリーダー 菊池 誉志

4月から事務局教務学生グループに着任しました。前の職場は、大分県立病院で予算の担当をしており、病院長、看護部長との関わりが主だったので、今回、看護科学大学に着任し、学生の皆さんの大学での勉強や生活等に対する支援を行うことになり、とても嬉しく思っています。

学校事務は初めてですが、学生の皆さんが充実した大学生活を過ごせるようサポートしていけたらと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



### 事務局財務グループ 主事 安部 翼

4月から事務局財務グループに着任いたしました安部と申します。大学での業務は初めてのことで至らぬ点もあるかと思いますが、早く大学の一員として力になれるように尽力していきたいと思っています。

今回「風のひろば」の制作にも携わらせていただいておりますが、本誌を通じて本学の取組や魅力をより多くの方に知っていただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

どうぞよろしくお願いいたします。



### 事務局財務グループ 主幹 伊東 美穂

事務局財務グループに着任いたしました。これまで、教育、福祉、保健、会計、税、林業、病院などの分野で仕事をして来ましたが、大学事務はそのどれとも違って、新鮮で刺激的な毎日を過ごしています。その反面、過去の経験や知識が役に立つ場面に遭遇することも度々あって、曖昧だったことをより深く掘り下げて考えるよい機会となっています。より良い大学運営のための一助となりますよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 退職教員のご紹介

令和3年3月31日で退職された皆様です。大変お世話になりました。新任地での活躍を祈念いたします。

職名	氏名
教授	甲斐倫明
准教授	平野 互
助教	稗田 朋子

## メッセージご紹介

甲斐倫明先生からメッセージをいただきました。



1998年4月に大学創立時から23年間にわたり、人間科学講座環境保健学研究室において、環境保健および放射線健康科学に関する教育研究に従事してきました。この間、多くの学生や同僚との出会いは 教育研究に関わるものの得難い喜びでした。4月からは大分市内にあります日本文理大学に勤務しています。診療放射線技師などの医療専門職を養成する保健医療学部の新設に関わる仕事をしていました。また、これまで続けたきた放射線保健・リスク解析に関する研究や国際貢献及び社会貢献も、可能な限り続けていくつもりです。

甲斐 倫明



大分県立看護科学大学  
保健管理学研究室  
講師 荒木 章裕

今年度より教員として大分県立看護科学大学に勤務しています。平成21年に本学を卒業し、以前からの目標であった教員として戻ってくるのが叶いました。対面で接する機会が少ない中においても、あたたかく迎え入れて下さった皆様に心から感謝申し上げます。

私は看護師として急性期病院や慢性期病院で勤務し、大学院では高齢者の介護予防に関する研究に携わり、その後在宅看護の担当教員になるなど、医療・保健・福祉という複数の看護提供の場を経験してきました。職場環境のみならず、そこに従事する様々な職種や多様な対象者と接していく中で、価値観や看護観も日々変化してきました。この変化を受容できたのは、本学に在学していた4年間で培われた自律に至るための基盤があった

からだこそと感じています。

県外の看護系教育の場から見た本学は、看護学を牽引する先駆的な大学であり、どの職場でもその名前を知らない人はいない程度でした。自分が卒業生であることを恐れ多いと感じることもありましたが、自分を育ててくれた母校に恥じないよう研鑽を積み、今では胸を張って言えるまでになったと自負しています。当時の先生方が描かれていた卒業生像に合致できているかはわかりませんが、多くの先生方に知識・技術・感性を磨いていただくなかで、その種を蒔いていただいたからこそ、卒業後の進路の先にある道を拓くことができました。おそらく、本学でなければそこに至ることはできていなかったと思います。

教員となつて数年が経ちますが、前任校と教育のニーズも異なり、改めて教育の難しさというものを実感しています。また本学の学生の皆さんに関わっていくにあたり、自身が本学の示すモデルとなる責務があると感じています。引き続き自己を研鑽し、また半学半教の精神を忘れず、大学教育、ひいては看護学に貢献していきたいと考えています。



大分県立看護科学大学  
助産学研究室  
助手 矢野 杏子

私は平成27年に本学大学院を修了し、助産師として大川産婦人科病院に就職しました。県内でも随一の分娩件数を誇る病院でしたので、複数の方の分娩進行を同時に受け持つことや外来診療に影響がないように分娩予測を立てることが助産師として求められており、「私にはつとまらないのではないか」という思いを日々感じていました。分娩介助に消極的な私に

対して、「分娩をこわいと思うことは悪いことではない。こわいと思う分しっかりとすることが大事」と背中を押してくれた先輩助産師のおかげで分娩介助に向き合っていくことができました。大学院のときの授業資料やテキストを見返すこともあり、知識と実践を結びつけることで学びを深めることができたと思います。また同時に複数の分娩進行をみる経験から、分娩

進行の予測や優先度を考えて動くことを体験からも学ぶことができ、多くの症例を経験できたことは助産師としての財産だと思っています。

その後、入院中の乳房ケアを行うなかで陥没乳頭の症例を経験し、乳房ケアの技術を身につけたいと思ったことがきっかけで、堤式乳房マッサージ法研究所に入所しました。入所後は乳房マッサージの技術に加え、問診の技術の大切さを学びました。問診で妊娠中から現在まで順を追って話を聴くことで、原因探索を行い、ケアに繋げることができました。

そして本年度からは本学で助産師教育に携わらせていただいています。思えば私は助産師となつてから、様々な壁にぶつかつてきたと思います。まず初めに分娩介助、次に乳房ケアについて、その度に先輩助産師や先生方など多くの人に支えられて今日まで一歩ずつ進む形で助産師としてやってこれたと思います。これからは私がしてもらったように時には励まし、時には学ぶ方向性を導きながら、後輩の助産学生の成長を見守っていきたいと思います。

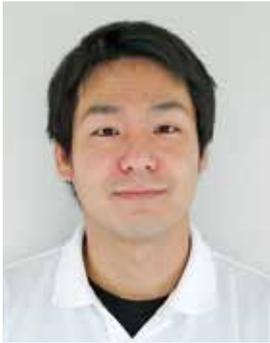
## 放射線誘発急性骨髄性白血病の実験動物マウスを用いた 繰り返し頭部X線CTによる発がんメカニズムの解明

現代医療において放射線を利用した単純X線検査やCT検査などの画像診断は必要不可欠な検査の一つです。CT検査1回あたりの被ばく線量はおよそ5〜30ミリシーベルトですが、繰り返し検査を受けた場合は総線量も増加し、将来的な発がんリスクの増加が懸念されます。特に小児期の子供は成人に比べて相対的に発がんリスクが高いと考えられます。近年、疫学調査によって、小児期の子供に対する頭部X線CT検査では、検査の回数に依存して放射線の累積被ばく線量が増加し、小児白血病や脳腫瘍の発症リスクが増加することが報告されました。100ミリシーベルト以下による健康影響や発がんリスクを議論する際に、疫学データは重要な知見となります。しかし、放射線の発がんリスクは、線量が低くなればなるほど、喫煙や健康習慣などの他の発がん要因の影響に隠れてしまうため、評価することは容易ではありません。よって、医療における放射線の発がんリスクを科学的な知見から明らかにするには、疫学調査研究だけでなく生物学的な実験研究による詳細な発がんメカニズムの考察が必要です。

そこで、私は繰り返し頭部X線CTによる発がんリスクを生物学的に明らかにするための動物実験を行ってきました。動物用X線CT装置を用いて、C3H系マウス（放射線誘発急性骨髄性白血病（r

AML）の実験動物モデル）の頭部に100ミリグレイのX線を1回照射し、頭蓋骨中の造血系細胞を観察対象として、rAMLの原因となるSfp11遺伝子の欠失の発生頻度を観察しました。その結果、100ミリグレイであっても頭蓋骨中の造血系細胞にSfp11遺伝子の欠失が生じていることがわかりました。また、同様の照射を1日おきに5回繰り返し、総照射線量を500ミリグレイとしたところ、Sfp11遺伝子の欠失を持つ造血系細胞の割合が1回照射と比べて増加していました。しかし、この増加分と線量の関係は単純な比例関係ではなかったことから、造血系細胞に生じるSfp11遺伝子欠失の蓄積には時間的な要素や全身での造血系細胞の動態が関与している可能性が考えられました。

現在も本研究は継続しており、頭部への繰り返しX線照射がどの程度発がんリスクを高めるのか生物学的に明らかにしていきたいと思っております。



環境保健学研究室 助教  
恵谷 玲央

### Research introduction

## 研究紹介

### 放射線不安・リスク認知に関する研究

2011年の福島第一原子力発電所の事故から10年が経過しましたが、いまだ復興の途上にあります。私はこの事故を契機に放射線に関心を持ちました。当時私は、20年看護師経験があったにもかかわらず、放射線療法における有害事象は知っていても、放射線に関する基礎知識はほとんどなく、放射線に対して漠然とした不安を感じているだけでした。そこで、放射線看護や放射線の基礎を学ぶために大学院へ進み、原子力災害対策重点区域（PAZ・UPZ）内の市町村職員と小中学校教員の放射線に対する不安要因を明らかにし、リスクコミュニケーションの一助となることを目的とした研究に取り組みました。その研究の中で明らかになった、放射線に対して不安がある市町村職員の特徴は、「女性であること」、「21年以上勤務していること」、「原子力防災訓練に不参加なこと」、「放射線の知識が少ないこと」とです。また、放射線に不安がある小中学校教員の特徴としては、「児童生徒から放射線関連の質問・相談を受けること」の不安があること、「40代以上である

こと」、「女性であること」、「小中学校の教員であること」、「医療被ばくに対する抵抗があること」でした。共通の項目である「女性であること」は、妊娠、出産、子育てといった母性要因が大きく関わっていると考えました。いまだ福島では、低線量下での健康影響が問題となっており、保健師は、お母さん方に対して少人数で、顔が見える関係を保ちながらの円卓を囲んだ座談会を開くなどして、リスクコミュニケーションに取り組んでいきます。住民や日常的に医療放射線を利用している患者さんに寄り添う看護職には、リスクコミュニケーションに取り組み上で、放射線の基礎知識が大事になります。今後も教育と研究に向き合っていきたいです。



成人・老年看護学研究室 講師  
堀 裕子

## Information [お知らせ]

### 大分県立看護科学大学未来応援基金

[寄付をいただいた皆様へ]

この度は、「未来応援基金」にご賛同いただきありがとうございました。皆様の温かいお心遣いに感謝申し上げます。

皆様からの貴重な寄付金は、学生の学業の継続や、地域連携の更なる充実、国際化・グローバル化への対応等、学生・大学院生の活動を支援するため、大切に使用させていただきます。

今後とも本校への応援をよろしくお願いします。

[令和2年度寄付金額]

個人・団体総合計 90,000円

※平成30年度からの累計額:3,861,000円

[寄付者のご紹介]

令和3年3月末までにご寄付をいただいた方で、掲載に同意をいただいた方を掲載しています。掲載については、五十音順とさせていただきます。

個人(3名)

橋本 等 様

※お名前の掲載に不同意とされた方 2名



## 看科大[18号]クイズ・プレゼント

### 問題 NPコース ○○○○○選抜制度

○の中に正しい文字を入れ、下記のとおりはぎで応募いただくか、クイズの答えなど1~5までを記載して、メール(koho@oita-nhs.ac.jp)でご応募ください。

正解者の中から抽選で3名様に図書カード(2,000円分)をプレゼントします。

<p>郵便はがき</p> <p>8 7 0 1 2 0 1</p> <p>大分県立看護科学大学 事務局 行</p>	<p>大分市大字廻樫野2944-9</p> <p>1. クイズの答え 2. 郵便番号 3. 住所 4. 氏名(年齢) 5. 記事のご感想や    本学へのご意見</p>
---	--

**[締め切り] 令和3年8月31日** 当日消印有効

当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

## 看護ひとくち メモ



### 夏場のマスク、熱中症に注意! 小まめに水分補給をして予防しよう!

「新しい生活様式」では、症状がなくてもマスクを着用するよう求められています。今年の夏は全国的に平年より気温が高くなり、新型コロナウイルスの感染対策としてマスクを着用することで熱中症のリスクが高まっています。

#### ●マスクで熱中症リスクが上がる原因は?

- ・顔から首表面が覆われることで体温が上がりやすくなる。
  - ・口元に湿気が溜まり喉の渇きを感じにくくなる。
- そのため熱が体にこもり、気づかぬうちに脱水症状を起こす恐れがあります。

#### ●マスクを付けてコロナと熱中症を同時に予防する方法としては

- ① 3食をきちんと食べる。
- ② 「のどが渴いたな」と感じ始めたら水分摂取(多量のカフェイン摂取を控える)。
- ③ 経口補水液を家族1人2本×3日分常備しておく。
- ④ クーラーをすぐつけられるよう調整し、暑いと感じる場所にいない。
- ⑤ 換気をこまめにし、湿度も高くないよう注意(環境省ウェブサイトで毎日発表される「暑さ指数」もチェック)
- ⑥ 快適な環境でよく睡眠をとる(疲労も熱中症リスク)。
- ⑦ 人混みを避けた散歩や室内での軽い運動を行う。

マスクを付けていると、首や顔の表面温度が上がりやすく、呼吸により負荷がかかるので、労作時の体温が上がる可能性があります。そのため、首を冷やしたり、ときどきマスクをとって熱を逃がすようにしましょう。スポーツ庁は、マスクをしていつも通りの運動をすると負荷やきつさが上がることがあるとして、運動速度を落とすなどの調整をするよう求めています。

マスクを付けながら暑さを上手に乗り切るためには、いつも以上に「小まめに水分補給を」して熱中症を予防していきましょう!

## Schedule [スケジュール]

8月	24日(火) 25日(水)・26日(木)	大学院入学試験 大学院研究中間報告会、 大学院研究計画報告会、 論文レビュー報告会
9月	5日(日) 6日(月)~11月26日(金)  11日(土)	夏期休業修了 老年・成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ 小児、母性、精神看護学実習 公開講座
10月	30日(土)	第23回看護国際フォーラム
11月	27日(土)	学校推薦型選抜試験および 社会人選抜試験
12月	1日(水)~2日(木) 6日(月)~20日(月) 24日(金)	卒業研究発表会 看護アセスメント学実習 冬期休業開始

※スケジュールは、変更になる場合があります。

